湿式法による高ナトリウムイオン導電性

**－原稿作成要領－　本ファイルをテンプレートとして使用できます。最後に（青色の）不要部分を削除ください。**

**講演番号のため空欄**

**(事務で入力)**

セラミックスの合成と特性

　　　（九工大院工) ○仙水一郎, 仙水花子, 九州太郎

**タイトル：16 point、所属・名前：12 point, 発表者に○**

1. **緒言**

要旨は、一般講演２ページ、A4サイズ縦書きで記載ください。マージンは、上下左右（25 mm以上）空けてください。文字サイズ（本文は12 point程度）や、形式は、本見本を参考にして下さい。A4サイズ100%そのまま印刷いたします。フォントは、例えば、MS P明朝ではなく、MS明朝を使用するなど、pdf変換時に文字化けしないものを使用頂ければ特に指定はありません。

1. **実験方法**

実験方法、材料の合成法、分析・解析法を記載ください。

（例）NASICONの合成は、ABC及び.DEFの各水溶液を、化学量論組成で、混合し、蒸発乾固してキセロゲルとした。＊＊＊これらを、1500℃で焼結した。得られたキセロゲル、仮焼体、及びディスクはTG-DTA、XRD、粒度分布測定等で評価した。イオン導電性は、Au電極を用い、交流インピーダンス法により測定した。

1. **結果と考察**

**図、表について**

**１．図、表は、掲載されたサイズ100%で印刷します。**

**２．適当なサイズの文字にして、見づらくないようにお願いします。**

**３．図、表のキャプションは、和文、英文、どちらでも構いません。**

３．結果、４．考察とに分割記載されても結構です。結果と考察を記載ください。

（例）合成した各焼結体ディスクのXRDパターンをFig.1 に示す。＊＊＊によりNASICONが得られることを見出した。

ここで、＊＊＊の違いを検討するために＊＊＊＊＊＊を調べた。キセロゲルは全て＊＊＊＊＊＊＊ことが重要であることがわかった。

粒度分布をTable 1に示すが、＊＊＊＊＊＊＊＊ことがわかった。

次に＊＊＊＊＊＊＊合成処理条件による影響を詳しく検討したところ、＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊..処理により導電率が向上した。

1. **結言**

結言を簡潔に記載ください。（数行）

（例）NASICONの湿式合成において、＊＊＊＊処理効果を検討した。＊＊＊＊＊処理でNASICON単相の焼結体ディスクが合成可能なことがを見出した。さらに、前駆体の＊＊＊＊＊＊＊処理は、焼結体ディスクの密度及びイオン導電率の向上に有効であることがわかった。

以下は、謝辞、参考論文の記載例です。指定はありませんので適宜記載ください。

(謝辞) 本研究の一部は＊＊＊費、＊＊＊12345の補助によった。

(参考文献)

[1] Y. Kyukoudai, Y. Tobata, and S. Sensui, *J. Ceram. Soc. Jpn.,* 11 (2), 345 (2017).

[2] http://www.che.kyutech.ac.jp/chem16/ck2017/index.html

＿＿＿＿＿

**原稿送付先；**

1. ｐｄｆファイルにて、[cclab@che.kyutech.ac.jp](mailto:cclab@che.kyutech.ac.jp) へ

**印刷の都合上できるだけ、ｐｄｆの送付にてお願いします。（修正加筆）**

1. 上記が困難な場合は、印刷物を郵送下さい。

〒804-8550　福岡県北九州市戸畑区仙水町１－１

九州工業大学・工学部・応用化学科・８号棟N402室

清水陽一　宛　電話：093-884-3323

**原稿締め切り：１０月１３日（金）必着**

**Ver。2017.09.14**